



香港

電気温水洗浄便座の適切な使い方ガイド

● HKCC ホームページ <https://www.consumer.org.hk/en/press-release/p-553-electronic-bidet-seats>

温かい便座は快適で、近年香港でも人気となり、店頭などに電気温水洗浄便座(以下、温水便座)の製品が増えた。HKCC(香港消費者委員会)は、設置のための必要事項や各種機能などを紹介している。まず、水道条例に基づき、設置には水道局の許可書が必要で、建物やフロア内への汚水の逆流を防ぐ装置を有資格配管工や登録配管業者が施工する必要もある。さらに、湿気の多い場所に設置する際は延長コードを避けるため、新たなコンセントの設置を登録電気工事技師に依頼する必要もある。

今回、HKCCが調べた9銘柄・32製品(3,399～14,800香港ドル)には温便座、温水洗浄、温風乾燥などの機能が合った。温便座はすべて温度調節可能であったが、上限が40℃の製品もあり、長時間座り続けると肌を傷める可能性がある。また、全製品が温水

洗浄機能付きで障がい者の下半身清拭^{せいしき}に便利だが、水温や水流の強さは最も低く設定してから徐々に調節すべきと指摘。マッサージ水流で刺激して排便を促せると言う製品もあるが、HKCCは慢性便秘症の人は医師に相談するよう勧めている。温風乾燥の設定温度の上限が60℃という製品もあり、65℃以下という中国国家規格は満たすが、長時間の使用は肌に不快感をもたらす可能性がある。

HKCCは適切に使うために ●定期的にノズルを清掃、ノズル浄水フィルターや脱臭フィルターを交換 ●トイレが浴槽やシャワーに近い場合は水よけのカーテンを使用 ●痔核^{じかく}などの症状がある人は使用前に医師に相談 ●長期間使用しない場合はプラグを抜き、機器内の水を抜くことで使用再開時の劣化した水による肌の不快感を防ぐ、などを助言している。



イギリス

高齢者の旅の必要経費は

● Which? ホームページ <https://www.which.co.uk/news/article/older-travellers-face-higher-prices-less-choice-aG2Tm0f2xAJr>
 ● Money Helper ホームページ <https://www.moneyhelper.org.uk/en/everyday-money/insurance/travel-insurance-for-over-65s-and-medical-conditions#>

海外旅行の際に加入する旅行保険では、高齢者の場合はリスク要因が増すこともあり、若い世代に比べて保険料が割高になることは違法ではない。だが、1週間のスペイン旅行の保険料は64歳で10.5ポンドのところ、85歳では健康に何ら問題がなくても15倍以上の162ポンドになる例もあった。2019～22年の値上がり率も25～54歳の33%増に比べて75歳以上は60%増、85歳以上は169%増で明らかな年齢差別であるとWhich?は指摘する。また、199件の旅行保険を調べたところ、190件は新規加入できる上限が70～75歳、一部には65歳までの制限があり、高齢者の選択肢は狭くなっている。

旅先でレンタカーを借りる際も高齢者の料金はほぼ2倍であるうえ、健康である旨の医師の文書や保険会社による直近の無事故証明を求められ、運転能

力のテストを行うところもあるという。レンタカー会社のサイトで30歳以上かどうかだけ問われて予約完了したつもりでいたのが、別記の細かい文字の利用規約に70歳以上には日額の追加料金、75歳以上はお断りとあり、現地で車を借りられない場合もあるという。

Which?は高齢の旅行者が少しでも不利にならないためのヒントとして ●これまでの保険を自動更新せず、BIBA(保険ブローカー協会)やWhich?などを参照して各保険を比較検討する ●健康に問題がある場合は、政府後援の一般向け無料ガイダンスのサイトで持病のある人向けの保険会社を探す ●レンタカーを借りる際は、年齢を詳細に記入し利用規約をよく読む ●シニア割引宿泊料を提供するホテルチェーンを活用する、などを助言している。



オーストリア

幼稚園児にも分かる絵本の良しあし

● オーバーエスターライヒ労働者会議所ホームページ

https://ooe.arbeiterkammer.at/service/testsundpreisvergleiche/tests/Kinder-Vorlesebaeucher-_das_sind_die_besten.html

冬の長い夜は、子どもに絵本を読み聞かせる絶好の機会である。ところが、次々と登場する新作絵本を前に、どの本を選べばよいのか迷う親が多い。そこで、オーバーエスターライヒ労働者会議所は、2年に1度、幼児向け絵本のテストを実施している。大きな特徴は、幼稚園児とその教師に協力を求めていることである。テストの際、教師が幼稚園で普段どおりに絵本を朗読し、園児は絵を見ながら物語を聞く。子どもがストーリーを理解できるか、子どもから「もっと読んで」と何回要望があったか、絵が魅力的かどうかなどが評価基準となる。

今回、絵本20冊を対象とした結果、12冊が「非常によい」と高評価を受けた。そのうち6冊は子どもたちの大のお気に入りになったという。人間の子どものほか、リス、猫、オオカミ、ワニ、怪獣、魔女など

が登場し、テーマも友情、けんか、先入観への戒め、個人差の尊重など多様である。教師から「感動的な物語」と感想が出た作品もあった。

一方、8冊は幼稚園児にはストーリーが難解で、「もっと読んで」とせがまれることもなかったとのことである。これらの8冊には、対象年齢「3歳以上」または「4歳以上」と表示されていたが、もっと年齢が上の子ども向けと評価された。

同会議所は、小さな子どものいる親に、普段から子どもを書店や図書館に連れて行くよう勧める。絵本を選ぶ際は、子どもの希望を尊重し、自宅に専用の小さな本棚を設置すると、自ら本に手を伸ばすと助言する。読み聞かせに適した時間は夜寝る前で、毎日同じ時間がよいという。何よりも、落ち着いた環境が重要だという。



ドイツ

冬の飲み物にも新しい波

● 商品テスト財団ホームページ

<https://www.test.de/Winterliche-Heissgetraenke-Glueh-Gin-macht-Gluehwein-Konkurrenz-5933646-0/>
<https://www.test.de/Rezept-des-Monats-Holunderbluetensirup-fuer-Hugo-4851958-0/>

冬のドイツで親しまれている飲み物といえば、グリューワイン(Glühwein)だろう。赤ワインにシナモン、クローブ、オレンジピール等のスパイスや砂糖を加え、温めた飲み物である。凍てつく戸外で、屋台のグリューワインを飲む光景は、冬の風物詩となっている。市販のスパイスミックス(ティーバッグ等)を使って、自宅で手作りする人も多い。

ところが近時、ドイツ人の好みに変化が生じているのだという。2021年11月に実施したアンケート調査(18歳以上対象*)によると、グリューワインを飲むのが「好き」「どちらかといえば好き」と回答した人は44%に過ぎず、半数以上の人にとって好みの飲み物ではないという結果となった。

こうしたなか、商品テスト財団が最近のトレンド

として注目するのが、グリュージン(Glüh-Gin)やフーゴ(Hugo)である。グリュージンとはジュースにスパイスを加えて温め、ジンを注いだ飲み物である。一方、フーゴとは北イタリアで発案されたカクテルで、西洋ニフトコの花(エルダーフラワー)で作ったシロップを、スパークリングワイン等で割った飲み物である。夏の飲み物というイメージが強いが、ホットにしてもよい。

このような好みの多様化を受けて、店頭には瓶・缶入りカクテル類が多数並ぶが、消費者が糖分、カロリー等を把握するのは難しいのが現状である。EUではアルコール度数1.2%を超える飲料は、原材料・栄養成分表示義務の対象から外れるためである。そこで同財団は、甘さなどを調節できるように、ホットカクテル類を自分で手作りするのを勧める。

* ドイツでは18歳からすべてのお酒が飲めるようになる